

4

約10,000年前・約7,000年前

三本松遺跡

(縄文時代早期前葉・後葉)

さんぼんまつ



県道改築工事に伴い、平成十七年から十九年まで西之表市教育委員会が発掘調査を行いました。

調査の結果、大量の土器片・石器類・遺構（竪穴状遺構・集石・土坑・石器製作場）が発見されました。

土器の大部分を占めるのが、縄文時代早期前葉（約一〇〇〇〇年前）の「吉田式土器」と呼ばれるもので、土器の文様に数多くのバリエーションがあることがわかりました。また、竪穴状遺構が三基発見され、これは住居跡と考えられ、鹿児島県内では、この時期（約一〇〇〇〇年前）の住居跡の報告例は少なく、貴重な発見となりました。



発掘調査の様子



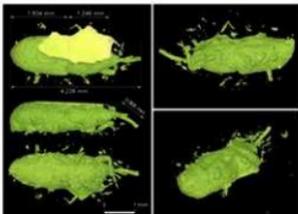
三本松遺跡出土 吉田式土器

三本松遺跡で発見された土器の調査を熊本大学が行ない、約一〇〇〇〇年前の土器片からコクゾウムシの痕跡が七件発見され、世界最古級であることがわかりました。コクゾウムシは、ドングリなどの貯蔵食物に寄生していた可能性があり、食物の貯蔵方法など縄文人の暮らしぶりを浮かび上がらせる貴重な資料となりました。また、島外から持ちこんだ黒曜石や安山岩の破片が集中して大量に見つかったことから、海を越えての活発な交流を行ない、遺跡内で石器を作っていたことがわかりました。

貴重な発見が相次いだ三本松遺跡は、種子島及び南九州の縄文時代早期文化の研究史において、極めて重要な遺跡となりました。



吉田式土器出土状況

世界最古級のコクゾウムシCT画像
(三本松遺跡出土土器より発見されたもの)